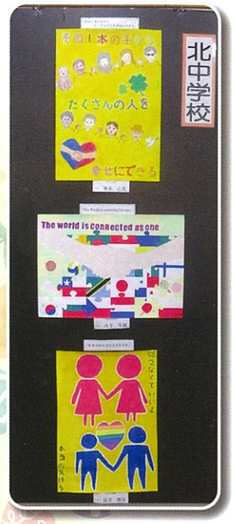
人権週間　人権作品展示　12/4(水)～10(火)

人権週間に合わせて、倉敷市人権ポスターコンクール入賞作品をはじめ、菅生小学校・中庄小学校・北中学校の児童生徒の習字やポスター、標語を北公民館にて展示しました。

《倉敷市人権ポスター入賞作品》

《北中学校ポスター》

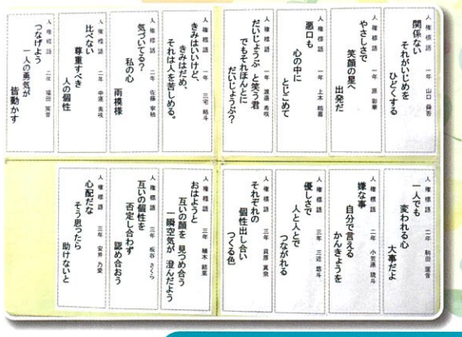


《菅生小学校ポスター》

《中庄小学校ポスター》

《菅生小学校習字》

《北中学校標語》



《中庄小学校習字》

令和6年度　北中学校区人権学習推進委員・事務局員

○は新任

会長	松田良一
副会長	光畑久美子
〃	牛尾美幸
監査	村上裕美
〃	内田理香
推進委員	井出妙子
〃	井上小百合
〃	○渡辺英信
〃	大畠由紀
〃	遠藤康洋
〃	○山砥悦子
〃	坪井英生
〃	守屋裕治
〃	藤井光雄
〃	東広臣
〃	勝皎子
〃	○藤井芳典
〃	森本洋一
〃	山本喜一
〃	戸板雅子
〃	矢野周子
〃	守屋章永
〃	山口徹
〃	安原輝久
〃	池上未恵
〃	○山本梨那
〃	松崎晃
〃	渡邊俊一
〃	三宅加寿子
〃	阿部弘文
〃	中山斉
〃	橋爪操
〃	松田いずみ
〃	笠原悦子
〃	山中慎太郎
〃	芳賀奈央子
〃	香西尚明
事務局長	岩澤亮佑
事務局員	三村菜々美
〃	○祢宜谷尚樹
〃	浅原好博
〃	土家健裕
〃	佐々木幸子
〃	○立間恵子

人権クイズの解答・解説

【解答】　b)社会的・文化的に形成された性別の役割や期待

【解説】　「ジェンダー」とは、生物学的な性別（男性や女性）ではなく、社会や文化が作り出した性差のことを指します。例えば「男は男らしく」や「女は女らしく」などがあげられますが、どんな性別でも自由に自分らしく生きることが大切だという考え方が広がっています。

人権だより
ふれあい
第49号

発行日　令和7年3月1日
発行者　北中学校区人権学習推進委員会
事務局　倉敷北公民館
倉敷市中庄1895－1
TEL/FAX　086－462－3022

倉敷北公民館　北中学校区人権学習推進委員会 主催　R6.12/7(土)

「心と心ふれあいの集い」

「たんぽぽぐみ」の人形劇

「フレッシュマミーズ」のハンドベル演奏

人権ふれあいかるたとり

人権○×クイズ

最初は人権クイズです。全4問とも少々頭をひねりながら、大人も子どもも真剣に考え、解答に一喜一憂しながら注意深く解説を聞きました。クイズを通して相手を思いやる気持ちとはどのようなものかを学びました。そのあとのハンドベル演奏では、フレッシュマミーズさんの奏でる音色で、胸が一杯になりました。知らず知らずのうちに口ずさんだり、体を揺らしてリズムをとったり、ベルをお借りして一緒に演奏したりして楽しいひと時を過ごすことができました。時間が許せば"アンコール"したいほどの素晴らしい演奏でした。次は、毎年好評の真備の人形劇団「たんぽぽぐみ」さんの公演で会場が沸きました。"にんじん・だいこん・ごぼう"と"うしとかえる"の人形劇では、それぞれの野菜が様々な色に変わっていったり、小さな蛙と大きな牛が出会ったりするお話を通して、「みんな違っても大丈夫、一人ひとりが大切で素晴らしい」ということを再確認することができたと思います。最後の手話を添えての歌に自然に手が動き、気持ちを伝え合う喜びを全員が感じたのではないでしょうか。昨年度より復活した人権かるたは、9グループに分かれ、活発なかるた取りゲームが行われました。みんなの協力で最高の雰囲気の中、本日一番の盛り上がりの場面。年齢も地域も職業もまちまちのグループメンバーでしたが、ルールを守って枚数を競いながらも、手札の少ないメンバーへの思いやりを忘れず、誰が札をとっても拍手が起こるような優しさがあふれる本当に素敵な時間でした。私が参加したグループでは、同数の取り札のためジャンケンの結果、最年少の小学生が優勝しました。

「高めよう地域ぐるみで人権意識」のスローガンのもと、参加者と開催スタッフが心をひとつにして共に作りあげるとても温かい集会になりました。今後ますます人権を尊重しあえる地域となりますよう、皆様と一緒に知識を深めていきたいと思います。　推進委員　笠原　悦子

参加者の感想

＊人権○×クイズで何がいけないことなのか分かりやすかったです。
＊クイズやかるたを通して楽しく人権意識を高めることができました。
＊子どもたちにとっても学校以外の場で人権を耳にする機会は少ないと思うので、この会自体、人権意識をもってもらうとてもよい会だと思います。

研修視察　高知市立自由民権記念館　R6.8/22㈭

私たちにはさまざまな権利があります。表現の自由、男女平等、参政権などなどです。自由民権記念館の見学を通して、そうした権利が認められない時代の人々の活躍や苦悩などを知ることができました。

歴史の教科書にも出てくる「自由民権」という言葉。国会や憲法をつくろうと、明治時代には「自由」という言葉が流行しました。芝居小屋で民権家による演説会が行われたり、憲法が新聞に取り上げられたりと政治への関心の高さがうかがえます。民権の歌やおどりもあったそうです。しかし、当時は政府が集会や新聞を規制し、弾圧していました。高知県では高知新聞などが発行禁止となり「新聞の葬式」が行われました。

高知市では、明治13年に女性の参政権（女性が政治に参加できる権利）が地域規模で認められていた場所があります。楠瀬喜多さんが女性の立場による女性の参政権を訴えたのです。しかし、日本で正式に女性の参政権が認められるのは、60年以上も後の昭和21年でした。

研修を終えて、私たちが当たり前にもっている「権利」の大切さを改めて感じ、自分や周囲の人の人権を守っていきたいと思いました。

事務局員　岩澤　亮佑

講演会　人権教育講演会 in 北公民館　R6.9/26㈭

演題　**「江戸落語を愉しもう！」**

講師　アマチュア落語家　笑皆亭（しょうかいてい）□□（きっす）先生／端唄三味線　藤本（ふじもと）刃七（とうしち）先生

「江戸落語を愉しもう！」の演題で、おかやまおもれぃ会の笑皆亭□□様と端唄三味線の藤本刃七様をお迎えし、多くの参加者の皆さんとともに、とても楽しいひと時を過ごすことができました。落語では、『番町皿屋敷』で、お菊さんの数える皿の枚数がどんどん増えていく時の緊迫した状況を固唾をのみながら聞いていたその直後、絶妙なオチに大爆笑。他の演題の軽快な語りと想像を超えるオチにも「なるほど！」と感動しました。

藤本様の端唄『奴さん』では素晴らしいお唄と三味線の音色に心癒され、最後は皆さんで『祇園小唄』を大合唱。皆さんの心が一つになりました。とても楽しく素晴らしい講演会でした。

会長　松田　良一

参加者の感想

＊人の噂がどんどん伝わって最後は噂だけがひとり歩きし、おおごとになっていくさまは、現代のネット社会の仕組みを表しているようで気を付けていかなければならないと落語から学びました。

＊楽しい落語と三味線、普段あまり聞くことがないのでとても良かったです。

＊分かりやすい落語と素敵な三味線をありがとうございました。久々に古典芸能の世界に浸らせていただきました。

人権クイズ

【問題】SDGsの目標にも掲げられているジェンダーの平等、このジェンダーが指すものとして最も適切なのはどれでしょうか？

a）生物学的な性別
b）社会的・文化的に形成された性別の役割や期待
c）人が持つ性格や趣味

地域に根ざした人権ふれあい活動　各学校園での人権の取組

中庄幼稚園

日時　令和6年6月5日（水）

演題　**「子どもの人権として考えてみよう ～食で変わる子どもの未来～」**

講師　倉敷市親育ち応援学習プログラム　ファシリテーター

子どもたちがよりよい将来を送るための食生活についてお話いただきました。

最近では、ネグレクト等の育児放棄が問題になっています。その中で食生活が子どもたちの未来にいかに大切かを考えさせられました。そして、この講演会に参加し、それぞれの家庭でできることからやっていこうという保護者が多くみられ、食に対する意識が高まったように感じました。

「調味料だけでも無添加の物を選ぼう。」「子どもと一緒に食卓を囲む機会をふやしたい。」などの感想がありました。

菅生小学校

日時　令和6年6月15日（土）

演題　**「音楽で広がる人の『輪』」**

講師　ちくわ笛奏者　桃太郎からくり博物館館長　住宅 正人 先生

6月15日、ちくわ演奏者 住宅正人さんの講演会を聴きました。民謡を歌っていただいたり、最新のＪ－POPをちくわ笛で演奏していただいたりしました。どこにでもあるちくわを使って自分でちくわに穴をあけてちくわ笛体験もさせていただきました。「本当にちくわで音が出せるのか。」と疑問でしたが、実際に音がでて嬉しかったです。ちくわだけではなく身の回りの野菜や果物でも音が出るのか興味がわいたので家でやってみたいと思いました。

野菜や果物で楽器を作ったり演奏したりして友達や親や周りの人たちとも楽しく話ができ、『輪』が広がったように思います。

中庄小学校

日時　令和6年10月19日（土）

演題　**「新しい時代の子育て！～今、注目の「非認知能力」とは～」**

講師　倉敷親プロチーム　溝手 俊紀 先生／川上 富子 先生

「非認知能力」とは、やる気、忍耐力、協調性、自制心などテストでは数値化されない力のことです。非認知能力を高めるために、親としてできることを参加者の方とともに考えました。

『子どもへの声かけ』　何が良いのかを具体的に言葉で伝えることで、子どもたちは、それを意識できるようになります。結果だけを認めるのではなく、その過程を認めることが大切です。

『子どもの見方』　子どもの気になるところをプラスに捉えるリフレーミングについての演習を行いました。大人が子どもの何をどう見るかで子どもが変わってくると感じました。柔軟に子どもの様子を受け止めていきたいです。

菅生幼稚園

日時　令和6年11月7日（木）

演題　**「子どもの将来を見据えた子育て ～自己肯定感を育む親の姿勢について～」**

講師　山陽学園短期大学名誉教授・臨床発達心理士　村中 由紀子 先生

他者との比較により成績や勝敗などの外的条件で起こる一時的な肯定感（社会的自己肯定感）ではなく、親からの無償の愛を受けることにより自分が大切な存在であることを感じ続ける肯定感（基本的自己肯定感）を育んでいくことが大切である、ということを講演の中で多くの事例を挙げながらお話しくださいました。保護者からは、「『一方的な押し付けや上から目線の押し付けは子どもをつぶす』という言葉が心に刺さりました。」などの感想をもたれながら講演終了まで真剣に聞き入っておられました。

北中学校

日時　令和6年11月16日（土）

演題　**「夢を持ち続ける、そしてあきらめないことを ～パラアーチェリーとの出会い」**

講師　大江 佑弥 先生（倉敷市役所玉島支所）

パラアーチェリーとの出会いやパラリンピックでの経験についての話を聞き、あきらめずに夢や目標に向かって挑戦することの大切さについて考えることができました。実演で風船を射抜く姿を見て、ここまでの苦労や努力、パラアーチェリーのすごさを体感しました。また、講演後に多くの生徒が弓を持つ様子を見て、パラアーチェリーへの興味や関心が高まり、より身近なものになったと感じました。夢や目標をもって、前向きに頑張りたいという思いが強くなる素敵な講演でした。